

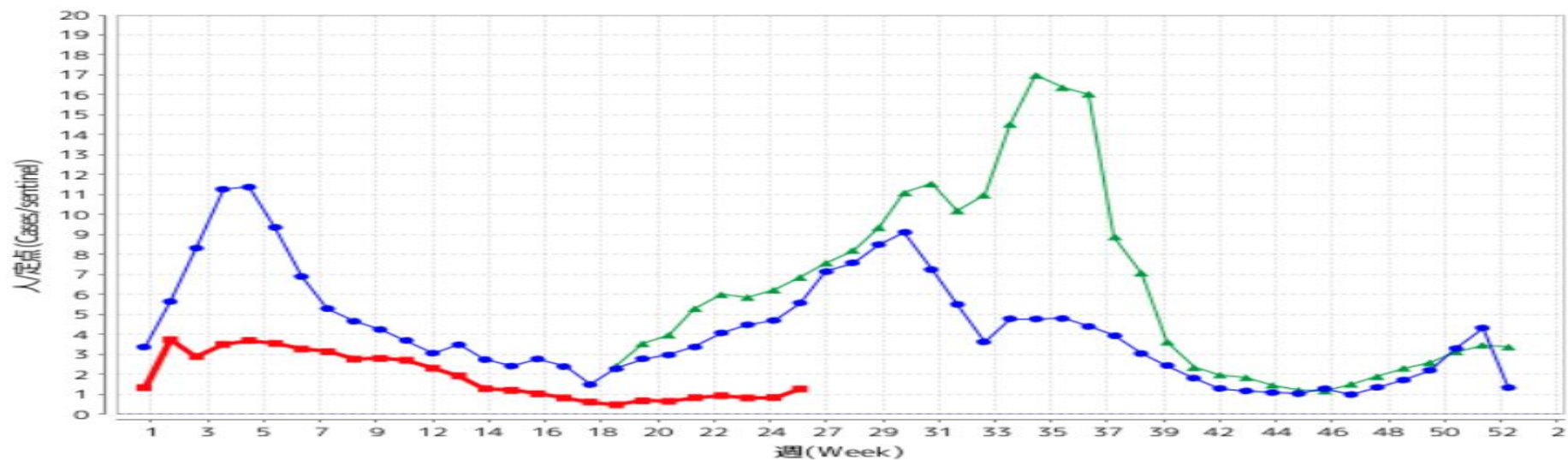
今冬の流行に備える ～ワクチン接種費用助成の必要性～

2025年7月8日

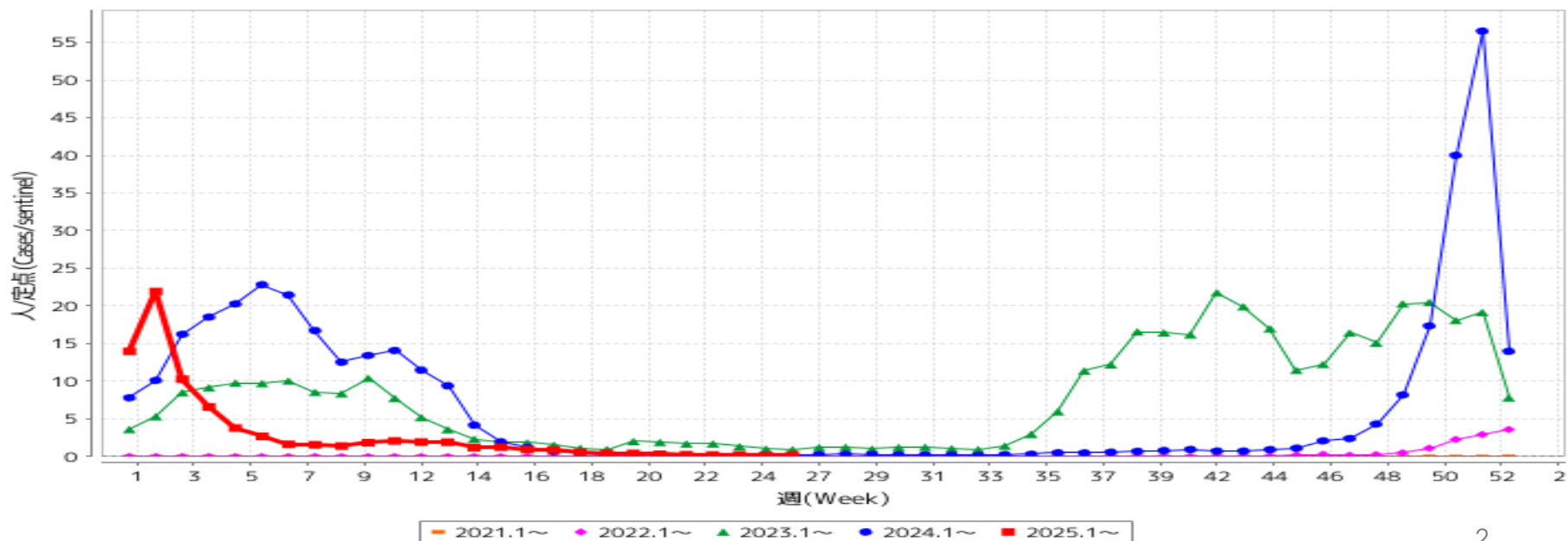
副会長 川上一恵

新型コロナとインフルエンザの報告数

新型コロナ

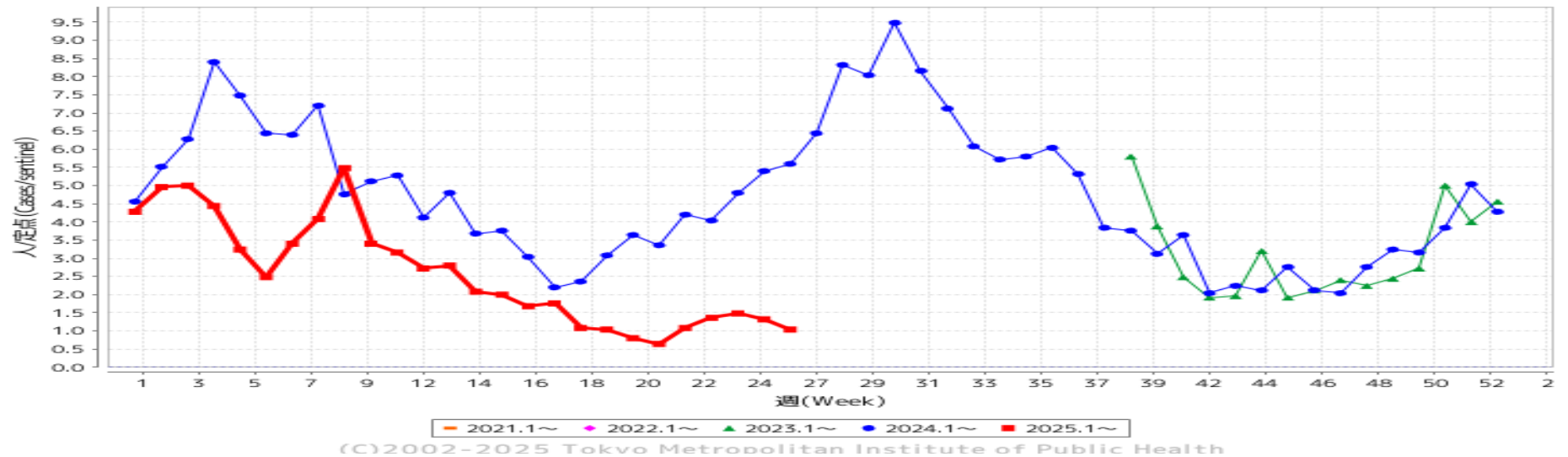


インフルエンザ

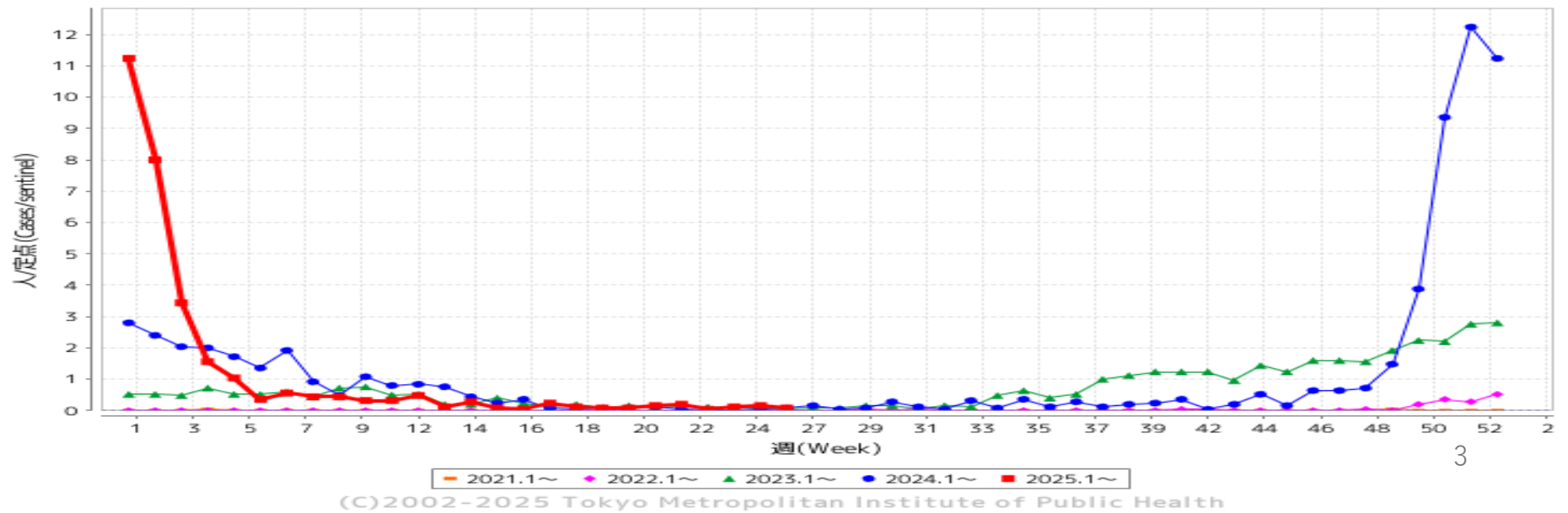


新型コロナとインフルエンザ 入院患者報告数

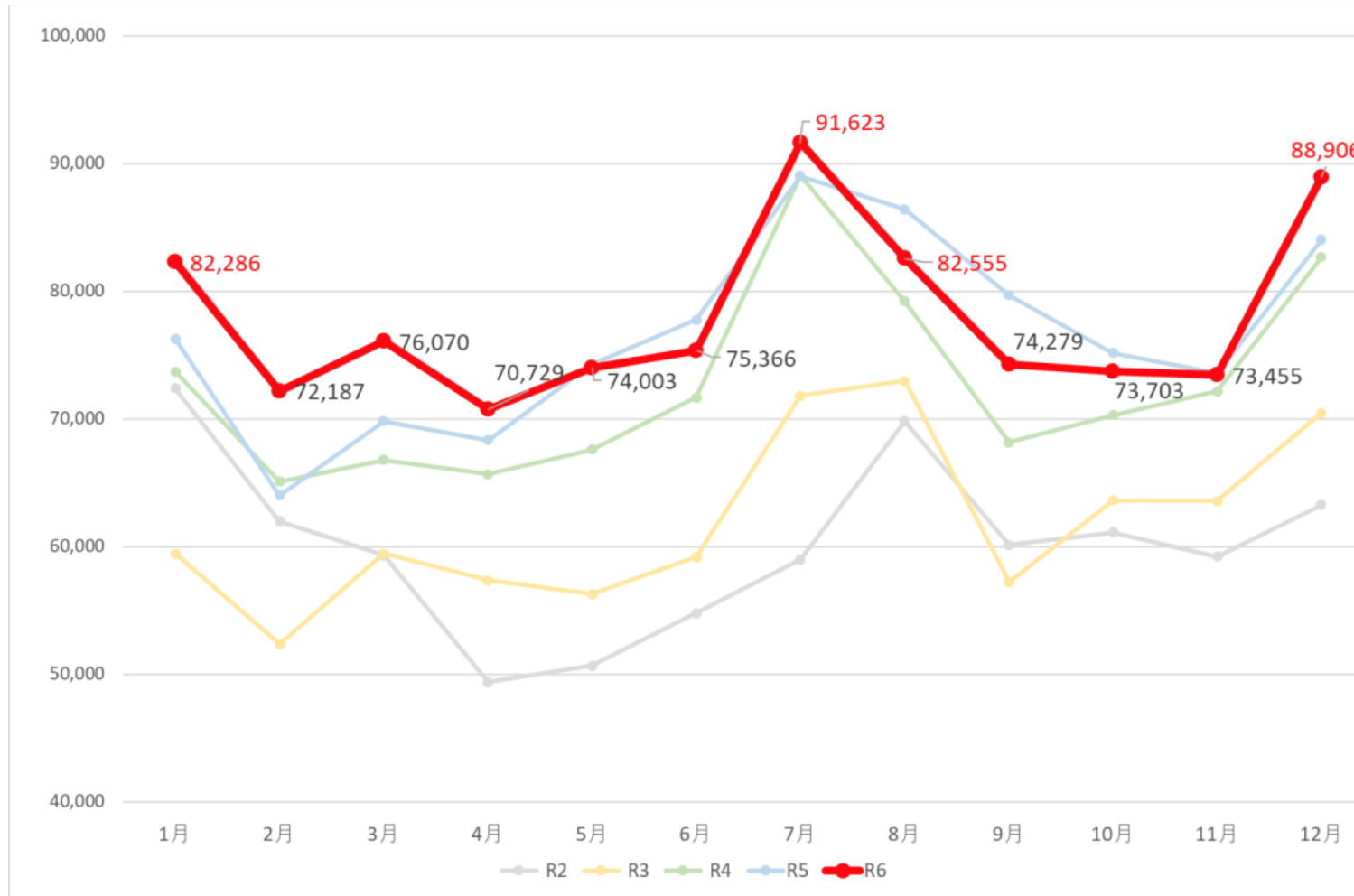
新型コロナ



インフルエンザ

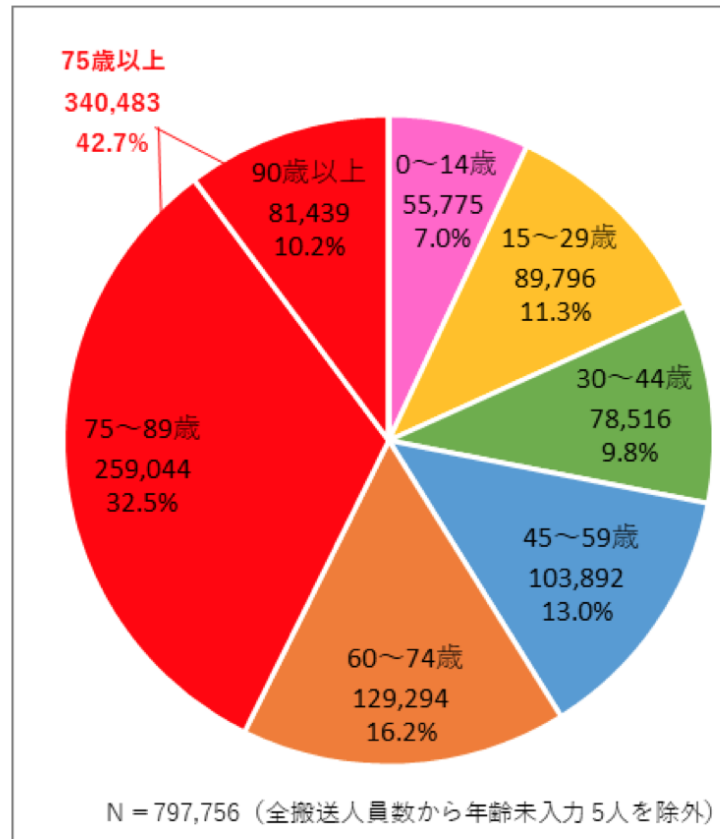


救急隊の出場件数（東京消防庁）

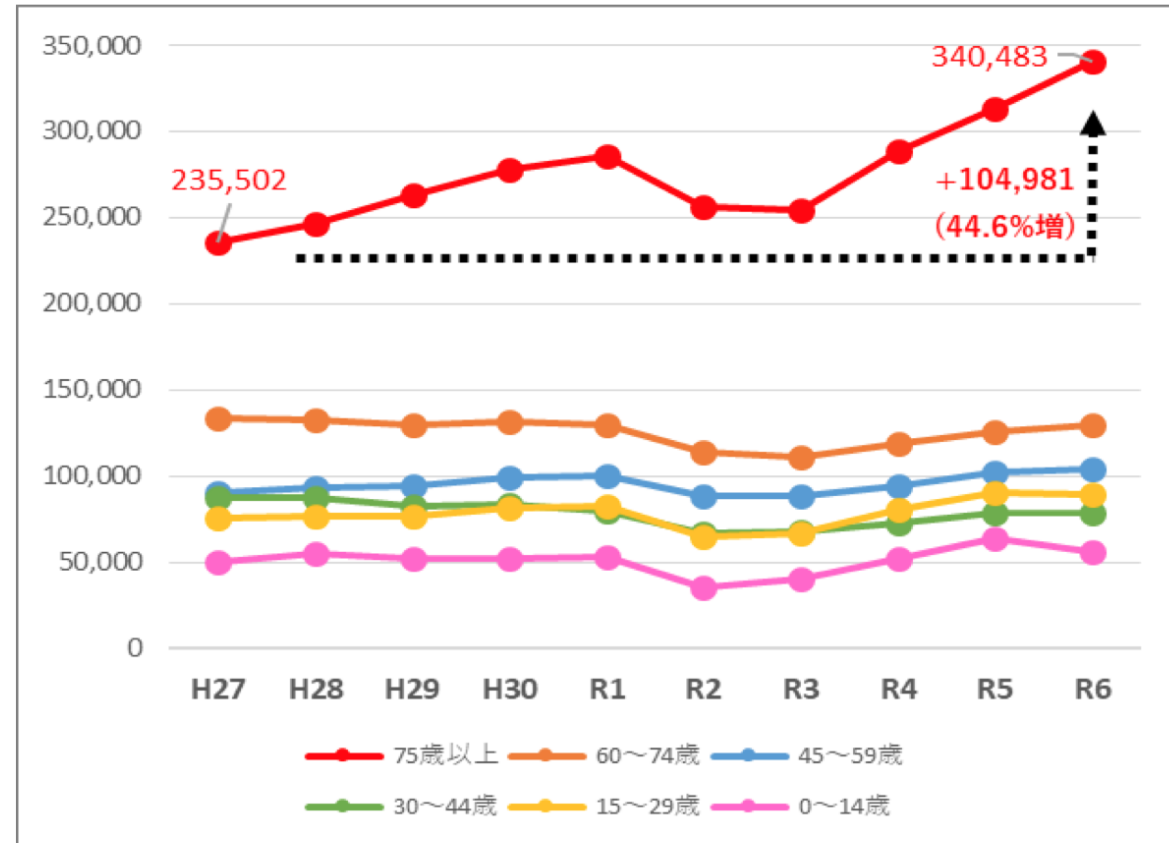


年代別搬送人員数

年代別搬送人員数（R6 構成比）



年代別搬送人員数（10 年推移）



<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/content/000067152.pdf>

新型コロナワクチンの効果

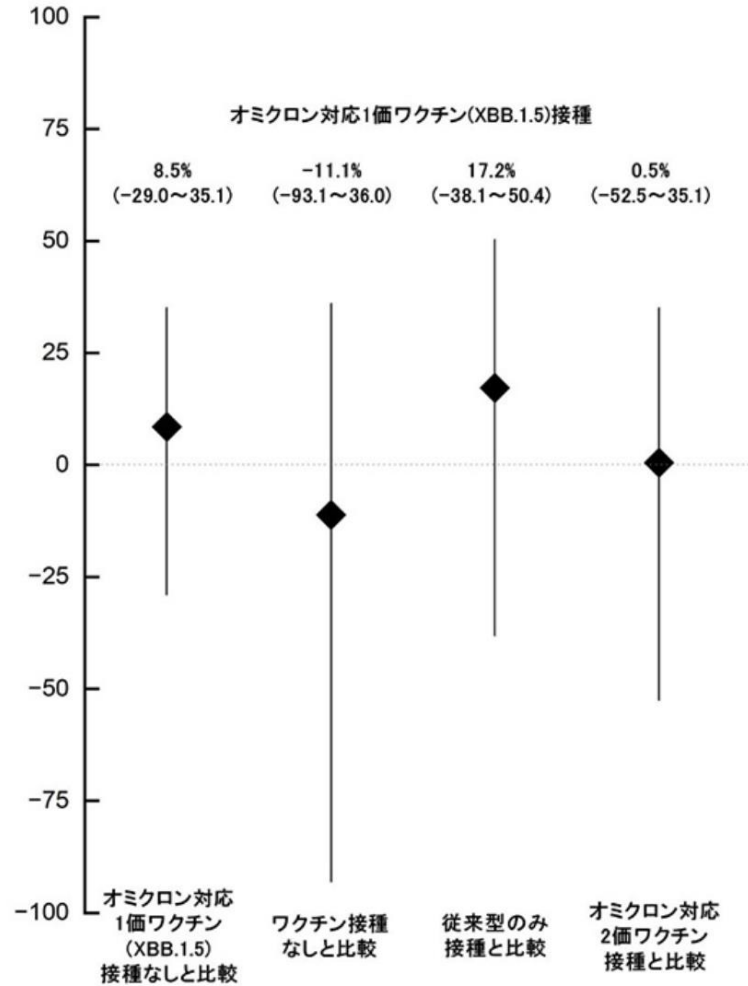


図5.65歳以上でのオミクロン対応1価ワクチン(XBB.1.5)の発症予防の有効性

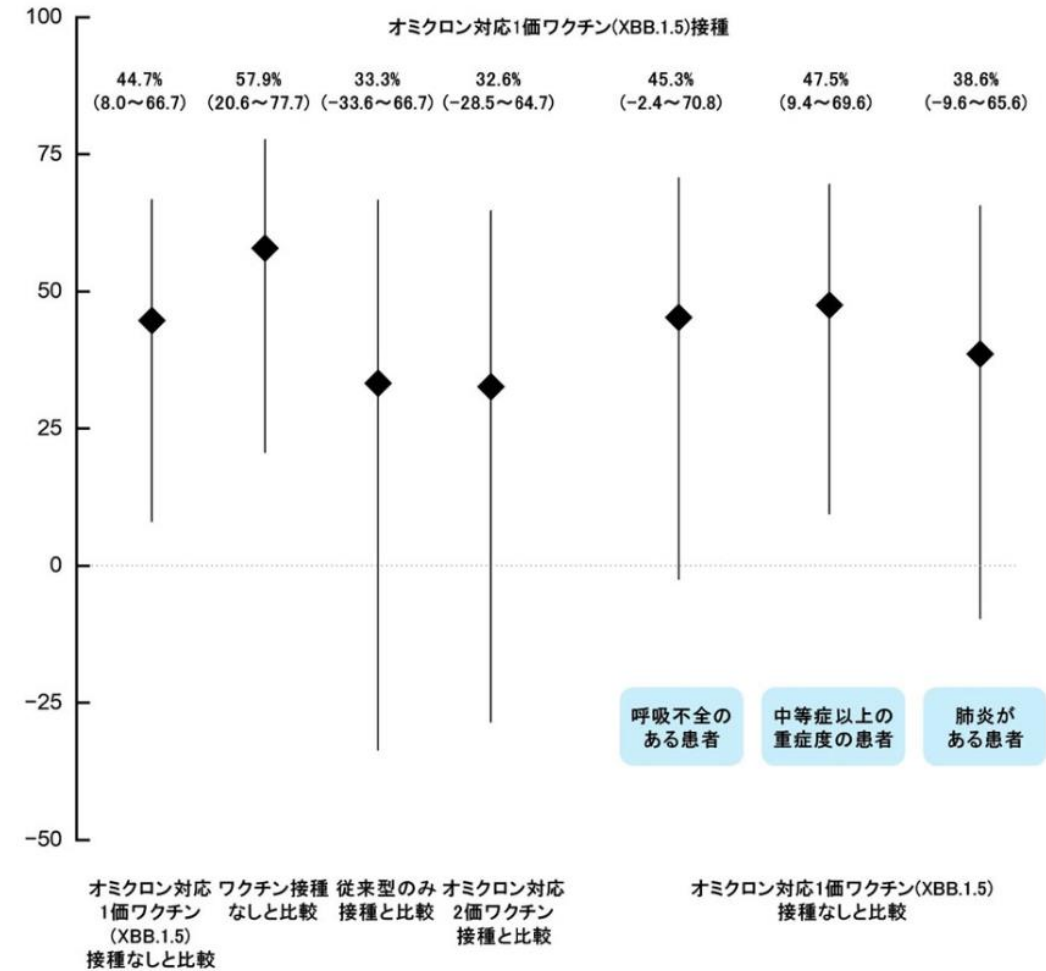
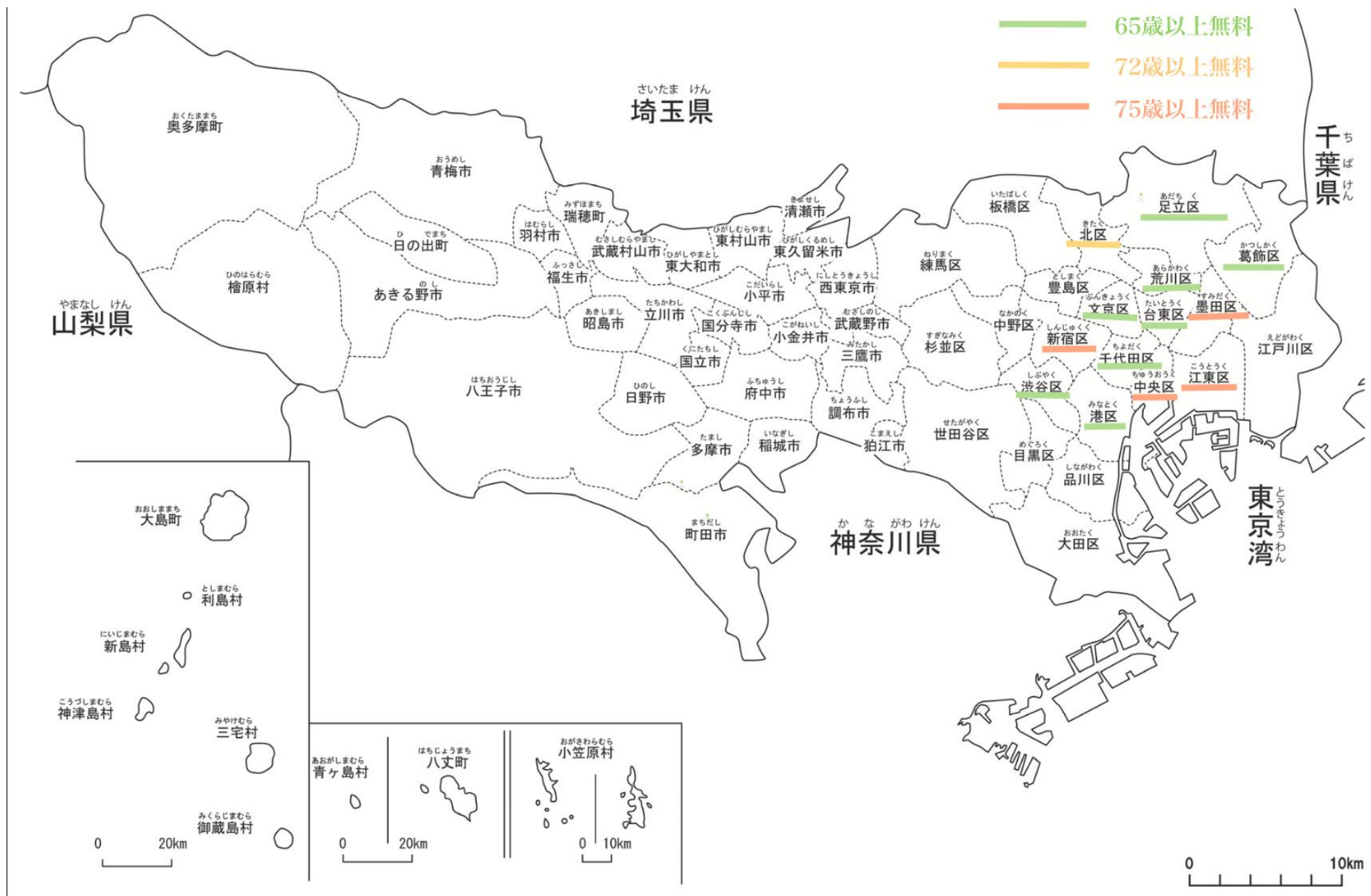


図7.60歳以上でのオミクロン対応1価ワクチン(XBB.1.5)の入院予防の有効性

2024年度新型コロナワクチン自己負担額



新型コロナワクチンの接種率（65歳以上）

- 特例臨時接種終了時点 94.4%
- 2024年度B類定期接種 24.8%*

*ヒューマン・データ・ラボラトリ株式会社
65歳以上の男女4000人を対象に実施した調査
実施時期：2025年1月23日～1月30日

費用負担が軽減されたら接種をするか？

24年度定期接種	25年度における想定接種率		
在住地域における自己負担額	-1,000円	-2,000円	-3,000円
0円 (n=556)	—	—	—
1,000 - 1,999円 (n=121)	8.6 %	16.8 %	—
2,000 - 2,999円 (n=164)	14.0 %	24.6 %	36.5 %
3,000 - 3,999円 (n=184)	16.0 %	34.0 %	41.1 %

費用負担が増加したら接種をするか？

24年度定期接種		25年度における想定接種率			
在住地域における		±0円	+1,000円	+2,000円	+3,000円
自己負担額	想定接種率				
0円 (n=179)	15.0~30.0%	14.9~29.7%	6.8~13.5%	5.7~11.4%	4.1~8.1%
	10.0~15.0%	9.9~14.9%	4.5~6.8%	3.8~5.7%	2.7~4.1%
	5.0~10.0%	5.0~9.9%	2.3~4.5%	1.9~3.8%	1.4~2.7%
1,000 - 1,999円 (n=108)	15.0~30.0%	13.8~27.6%	5.4~10.8%	2.9~5.7%	2.3~4.5%
	10.0~15.0%	9.2~13.8%	3.6~5.4%	1.9~2.9%	1.5~2.3%
	5.0~10.0%	4.6~9.2%	1.8~3.6%	1.0~1.9%	0.8~1.5%
2,000 - 2,999円 (n=271)	15.0~30.0%	13.1~26.1%	4.1~8.1%	3.5~6.9%	1.2~2.4%
	10.0~15.0%	8.7~13.1%	2.7~4.1%	2.3~3.5%	0.8~1.2%
	5.0~10.0%	4.4~8.7%	1.4~2.7%	1.2~2.3%	0.4~0.8%
3,000 - 3,999円 (n=222)	15.0~30.0%	11.0~21.9%	4.8~9.6%	3.0~6.0%	2.2~4.4%
	10.0~15.0%	7.3~11.0%	3.2~4.8%	2.0~3.0%	1.5~2.2%
	5.0~10.0%	3.7~7.3%	1.6~3.2%	1.0~2.0%	0.7~1.5%

まとめ

- 新型コロナウイルス感染症は夏と冬に流行する。
- ワクチンによって入院リスクを下げることができる。
- 冬場の救急車及び救急外来のひっ迫・崩壊を避けるためにも、ワクチン接種が勧められる。
- 接種費用の自己負担が減れば接種率は上がる。
- 行政には、ぜひ昨年並みかそれ以下の自己負担で済むよう、費用助成をお願いしたい。区部と多摩地域で差が出ない対応を望む。

新型コロナワクチンの有効性に関する研究 ～国内多施設共同症例対照研究～

Vaccine Effectiveness Real-Time Surveillance for SARS-CoV-2 (VERSUS) Study、

第11報

要約

長崎大学熱帯医学研究所

掲載日：2024年5月24日

長崎大学熱帯医学研究所を中心とする研究チームは、全国の医療機関（病院および診療所）と協力し、新型コロナワクチンの有効性を評価する研究を2021年7月1日から行っている。第11報では、オミクロン対応1価ワクチン（XBB.1.5）の国内接種開始後の2023年10月1日から2024年3月31日の調査結果から、同期間の国内でのオミクロン対応1価ワクチン（XBB.1.5）の発症予防および入院予防の有効性をまとめた。

発症予防の有効性の評価では、16歳以上の6,311名（うち検査陽性者1,330名）が解析対象となった。年齢中央値は43歳、22.4%が65歳以上、46.8%が男性、26.9%に基礎疾患があった。16歳～64歳において、オミクロン対応1価ワクチン（XBB.1.5）接種なしと比較したオミクロン対応1価ワクチン（XBB.1.5）接種完了（接種から7日以上）から90日以内の有効性は29.6%（95%信頼区間：0.5～50.2%）、90日以上の有効性は-26.9%（95%信頼区間：-109.5～23.1%）、新型コロナワクチン未接種と比較した有効性は接種完了後90日以内で35.9%（95%信頼区間：3.0～57.6%）、90日以上で-18.0%（95%信頼区間：-105.0～32.1%）、従来型新型コロナワクチンのみ接種と比較した有効性は接種完了後90日以内で27.9%（95%信頼区間：-4.5～50.3%）、90日以上で-32.6%（95%信頼区間：-123.3～21.2%）、オミクロン対応2価ワクチン接種と比較した有効性は接種完了後90日以内で26.8%（95%信頼区間：-7.3～50.0%）、90日以上で-34.8%（95%信頼区間：-128.4～20.5%）であった。65歳以上において、オミクロン対応1価ワクチン（XBB.1.5）接種なしと比較したオミクロン対応1価ワクチン（XBB.1.5）接種完了（接種から7日以上経過）の有効性は8.5%（95%信頼区間：-29.0～35.1%）、新型コロナワクチン未接種と比較した場合の有効性は-11.1%（95%信頼区間：-93.1～36.0%）、従来型新型コロナワクチンのみ接種と比較した場合の有効性は17.2%（95%信頼区間：-38.1～50.4%）、オミクロン対応2価ワクチン接種と比較した場合の有効性は0.5%（95%信頼区間：-52.5～35.1%）であった。

入院予防の有効性の評価では、60歳以上の1,110名(うち検査陽性者221名)が解析対象となった。年齢中央値は83歳、59.6%が男性、77.0%に基礎疾患があり、29.2%が高齢者施設入所者であった。60歳以上において、オミクロン対応1価ワクチン(XBB.1.5)接種なしと比較したオミクロン対応1価ワクチン(XBB.1.5)接種完了(接種から7日以上経過)の有効性は44.7%(95%信頼区間: 8.0~66.7%)、新型コロナワクチン未接種と比較した場合の有効性は57.9%(95%信頼区間: 20.6~77.7%)、従来型新型コロナワクチンのみ接種と比較した場合の有効性は33.3%(95%信頼区間: -33.6~66.7%)、オミクロン対応2価ワクチン接種と比較した場合の有効性は32.6%(95%信頼区間: -28.5~64.7%)であった。入院時呼吸不全のある患者、中等症以上の重症度の患者、肺炎がある患者に限定した分析も行ったが、ほぼ同等の値であった。

本報告はオミクロン対応1価ワクチン(XBB.1.5)の発症予防および入院予防の有効性を評価したものである。オミクロン対応1価ワクチン(XBB.1.5)を接種することで発症予防については限定的ではあるが、入院予防に関しては追加の予防効果が得られる可能性があることがわかった。一方、接種からの時間経過により有効性が低下する可能性が示唆された。本報告は暫定値であるが公衆衛生学的意義を鑑みつつ報告した。本報告は長期サーベイランス研究の一部であり、2023年10月1日から2024年3月31日の対象期間内でも未集計の情報も多数あるため、今後結果が変わる可能性があり、随時アップデートした結果を報告する予定である。

<https://www.tm.nagasaki-u.ac.jp/versus/results/20240524.html>

年齢階級別接種実績

○接種率

(7月1日公表時点)

	5歳～11歳※	12歳～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70歳代	80歳代	90歳代	100歳以上
1回以上接種者	14.2%	62.5%	80.1%	79.9%	81.2%	92.0%	92.6%	90.9%	93.7%	101.8%	109.4%	126.5%
2回接種完了者	13.7%	61.8%	79.5%	79.4%	80.8%	91.7%	92.4%	90.7%	93.5%	101.6%	108.9%	125.5%
3回接種完了者	7.0%	38.6%	55.4%	57.9%	62.9%	79.4%	85.7%	86.7%	91.0%	99.0%	105.3%	119.7%

○接種回数

	5歳～11歳※	12歳～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70歳代	80歳代	90歳代	100歳以上
人口	7,209,951	8,831,095	12,756,375	13,815,377	17,476,625	17,690,684	7,460,747	7,445,853	16,277,304	9,580,239	2,496,969	88,084
1回以上接種者	1,023,117	5,522,257	10,219,747	11,036,850	14,191,398	16,274,950	6,910,833	6,767,882	15,253,755	9,756,034	2,730,490	111,412
2回接種完了者	986,250	5,459,054	10,139,532	10,967,072	14,126,210	16,226,996	6,896,889	6,756,116	15,226,665	9,730,858	2,719,332	110,586
3回接種完了者	505,687	3,409,932	7,060,938	7,993,004	10,988,913	14,038,940	6,393,942	6,452,921	14,809,755	9,480,145	2,629,810	105,434

注：被接種者の年齢分布は、ワクチン接種記録システム(VRS)に報告済みのデータのみにより把握可能であるため、接種率の算出においては、VRSへ報告された、一般接種（高齢者を含む）と先行接種対象者（接種券付き予診票で接種を行った優先接種者）の合計回数を使用している。

使用回数には、首相官邸HPで公表している総接種回数のうち、職域接種及び先行接種対象者のVRS未入力分である約100万回分程度が含まれていない。

また、公表日前日時点の被接種者の年齢を基準とし、年齢階級別に振り分けている。

注：VRSに報告済みデータのうち、年齢が不明なものは計上していない。

注：年齢階級別人口は、総務省が公表している「令和5年住民基本台帳年齢階級別人口（市区町村別）」のうち、各市区町村の性別及び年代階級の数字を集計したものを利用しており、その際、12歳～19歳人口は、15歳～19歳人口に、10歳～14歳人口を5分の3したものを加えたものを使用しており、5歳～11歳人口は、5歳～9歳人口に、10歳～14歳人口を5分の2したものを加えたものを使用している。

※：首相官邸HPにおける「（総接種回数の内訳）」では、小児用ワクチンを接種した回数及び当該接種回数を人口で除した率を公表しており、それぞれ、シート「都道府県別（小児ワクチン接種率）」の合計のとおりである。

新型コロナワクチン接種率（東京都）

	12～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70歳代	80歳代	90歳代	100歳以上
1回以上接種者	528,860	1,210,123	1,555,997	1,769,102	1,912,771	727,821	600,361	1,283,987	884,760	238,973	8,866
	61.60%	68.90%	82.60%	82.90%	91.70%	97.50%	93.70%	91.40%	101.30%	112.60%	125.60%
	12～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70歳代	80歳代	90歳代	100歳以上
R5年秋開始接種	46,256	58,343	113,426	192,734	372,603	235,463	275,653	743,131	558,348	148,380	5,529
	5.39%	3.32%	6.02%	9.03%	17.82%	31.55%	43.03%	52.92%	63.92%	69.89%	78.35%